

女性蔑視はどうつくられるか ——ラファエル・リオジエ 『男性性の探究』をめぐって

連続討論会 2/2

【日時】

2021年7月26日(月)
18:30~20:30

【場所】@Zoom ウェビナー ※要登録

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_ql4_AjRPRNyUuzOwqmeHVw

上記URLもしくは右のQRコードより
ご登録をお願いいたします。



【言語】

日仏同時通訳 Japanese and French

【登壇者】

ラファエル・リオジエ

Prof. Raphaël LIOGIER エクス=アン=プロヴァンス政治学院教授

三牧聖子

Prof. MIMAKI Seiko 高崎経済大学准教授

清田隆之

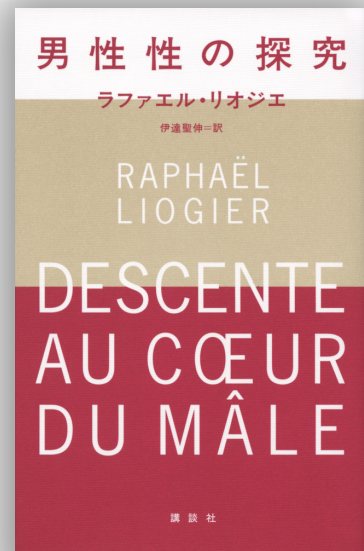
Mr. KIYOTA Takayuki 文筆業 / 『さよなら、俺たち』著者

【司会】

小川公代

Prof. OGAWA Kimiyo 上智大学教授

フランスの哲学者・宗教社会学者であるラファエル・リオジエは、#MeToo運動をきっかけに男性としての居心地の悪さを覚え、本書を書き出した。彼が問題視するのは、女性の身体に向けられる男性の視線である。歴史的・社会的・文化的に培われてきたこの眼差しが、女性を客体化 (objectiver) し「もの」 (objet) として所有することを可能にしてきた。本討論会では、フランス、英米圏、日本における「男らしさ」にまつわる諸問題を扱いながら、現代社会にふさわしい男女関係の再編について議論を深める。



【主催】

科学研究費補助金 基盤研究 (A)
「西洋社会における世俗の変容と「宗教的なもの」の再構成——学際的比較研究」

【共催】

東京大学東アジア藝文書院
East Asian Academy for
New Liberal Arts

痛みの研究会